

## 創造的過疎から考える持続可能な地域の実現

NPO法人グリーンバレーは、「日本の田舎をステキに変える！」をミッションに、過疎地の人口減少は不可避と捉え、外部から若者やクリエイティブな人材を誘致することで人口構造・人口構成の変化を促進する。また、多様な働き方や職種の展開を図り、神山町の働く場としての価値を高めることで、農林業だけに頼らない、バランスの取れた持続可能な地域(経済)の実現を目指す。

### 事業1 サテライトオフィスの誘致・運営、ワーク・イン・レジデンス

#### ○サテライトオフィスの誘致

・町の空き家を借上げ、借上げた空き家情報をホームページ「イン神山」で発信し、サテライトオフィスを誘致。

#### <事業成果>

・ITベンチャー、映像・デザイン会社などが、サテライトオフィスの設置や本社移転、新会社を設立。また、神山町の中心産業は農林業だったが、サテライトオフィスの誘致により、エンジニア、プログラマー、営業(オンライン)など、今までにない職種で新たな雇用を創出。



#### ○サテライトオフィス(KVSOC)の運営

・神山町で新しいビジネスコミュニティを創造し、地域発の先進的なサービスやビジネスを生み出すことを目的に、1日から利用できる「コワーキングスペース(共同の仕事場)として神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス(KVSOC)」を設置・運営。  
・情報技術、デザイン、映像関連等のクリエイティブ産業の集積を促進するとともに、起業家やその支援者、地域住民等との交流を通じて、新たな価値の創出を目指す。



#### ○WEEK神山

・「いつもの仕事を、ちがう場所で」をコンセプトに、町に進出したサテライトオフィスに興味を持ち、視察に来るビジネスマンに、1週間程度滞在して、神山での新たな働き方を体験してもらうための宿がKVSOCの向かいにオープン。  
・WEEK神山は、宿泊者とサテライトオフィスの関係者、地元住民をマッチングする役割も担う。

#### <事業成果>

・WEEK神山では、経営者やスタッフ、町民も参加した食事会が不定期で開催されており、宿泊客も参加できる。また、ワークショップも時々開催されており、移住者と住民が交流する場となっている。



#### ○ワーク・イン・レジデンス

・ビストロ、カフェ、パン屋、靴屋、ゲストハウス、デザイナー、アーティストなど、町の将来に必要と思われる「働き手」「企業家・起業家」を逆指名して誘致。

#### <事業成果>

・商店街の空き店舗へサテライトオフィスや飲食店等を誘致し、新しい商店街を形成。サテライトオフィス誘致の進展により、若年就業者や県内外からの来町者が増加し、レストランや宿泊施設等のサービス産業を活性化。また、そこで消費される食材(有機農産物)の生産を喚起することで経済効果が農業まで波及。

### 事業2 神山塾

#### ○神山塾

・若年の移住者を呼び込むため、「求職者支援訓練(厚生労働省)」を活用し、半年間の滞在型人材研修を実施。

・神山塾では、20代後半～30代前半、東京周辺、独身女性、クリエイター系の若者を中心に多数参加。

#### <事業成果>

・2010年12月開始以来、卒業生の約半数は神山町へ移住。また、誘致したサテライトオフィスへ就職する者や、卒業生同士のカップルも誕生。



## 事業の特徴・ポイント

### ○大南氏をはじめとしたグリーンバレーメンバーの人を引きつける魅力

グリーンバレーでは、「やったらええんちゃう」を合言葉に、固定観念にとらわれず、自分たちが楽しいと思えることを実行。また、外部者に対しても、神山町でやりたいこと(起業・アート活動など)を「やったらええんちゃう」と受け入れ、後押しする寛容性が人々を引きつける。

### ○神山町が持つ、異質なものと多様性を許容する寛容性

「アーティスト・イン・レジデンス※」の取組みが、グリーンバレーの活動の原点の一つ。芸術家などの外部者を20年近く定期的に受け入れ、外部者を受け入れる風土が培われていた。

### ○IT企業にとって魅力的なインフラが既に整備

TVのデジタル化に対応するため、国の補助金を活用し超高速ブロードバンド環境を町全体に整備。ネット環境は、都市部よりも安価で快適。

### ○町の経済活性化、新たな雇用の創出

企業のサテライトオフィスや起業者を誘致することにより、町の中で経済が循環。また、進出企業が地元で人材を採用し、新たな雇用を創出。

※アーティスト・イン・レジデンスとは

国内外から芸術家を創作拠点込みで招待。見学に訪れる観光客を増やす考え方から、創作に訪れる芸術家招聘を推進。

## 神山プロジェクト 年表

1991年(平成3年)8月	1927年にアメリカから日本に贈られた友好親善の「青い目の人形(アリス人形)」を、人形の故郷のペンシルバニア州ウィルキンズバーグに里帰りさせるため、「アリス里帰り推進委員会」を大南氏らを中心に民間で結成。 訪問団30名が人形を里帰りさせ、帰国後、同メンバーで「神山町国際交流協会」を設立。 アリス里帰りの成功体験が、後にグリーンバレー活動の原点となる。
1992年(平成4年)3月	神山町国際交流協会設立。同協会が後にグリーンバレーとなる
1999年(平成11年)	神山アーティスト・イン・レジデンス始動。 町の外部から定期的にアーティストを受け入れることにより、異質なものと、多様性を許容する寛容性が培われていく。
2004年(平成16年)12月	NPO法人グリーンバレー設立。(神山町国際交流協会から移行)
2007年(平成19年)10月	グリーンバレーが神山町移住交流支援センターの受託運営(徳島県委託)スタート。 サテライトオフィス誘致をはじめとした移住支援が始まる。
2008年(平成20年)6月	グリーンバレーのウェブサイト「イン神山」を公開。同時に「ワーク・イン・レジデンス」を開始し、神山町に必要な人材を移住者として選定。
2010年(平成22年)10月	神山町のサテライトオフィス第1号としてSansanが「神山ラボ」開所。
2010年(平成22年)12月	神山塾開設。
2013年(平成25年)1月	神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス開所。
2013年(平成25年)7月	プラットイーズの「えんがわオフィス」開所。
2015年(平成27年)7月	「WEEK神山」開業。

## 産業経済研究員からの一言

神山町は、近年大きな注目を集めているが、住民の発案をもとに、1998年に道路の美化運動が始まり、1999年以降、国内外交流の実験や挑戦を地道に積み重ねてきた経緯が、現在のIT関連企業等の進出に結びつき、国内外から注目されるようになった。IT産業は、創造的な産業とされ、その立地は必ずしも都市に限定されないが、商店街の空家、空き教室、地域固有の古民家などの既存のインフラを転活用し、ITインフラを整備することで、生活拠点としての魅力も高めることにより、産業や働き手、人々を広域的に惹きつけることができることを示す先行的な事例だといえる。徳島県の移住交流支援施策にも参画し、複数のボランティア団体がNPO法人グリーンバレーを構成し、住民が主体的に地域の活性化に取り組んでいる点も注目できる。



## サテライトオフィス誘致事例1 株式会社Sansan

### ○企業概要

- ・2007年(平成19年)三井物産(株)を退社した寺田氏が立ち上げたクラウド名刺管理サービスを手掛ける東京のITベンチャー企業
- ・「ビジネスの出会いを資産に変え、働き方を革新する」がミッション

### ○シリコンバレー時代の思い

- ・代表取締役の寺田氏は、三井物産(株)時代の2001年(平成13年)から2002年(平成14年)にかけて米国カリフォルニア州シリコンバレーに駐在。
- ・シリコンバレーの自然豊かな環境でIT企業の開発者たちが創造性を発揮し、新たなサービスを生み出すさまを目の当たりにした。オフィスも広くて優雅に見えた。
- ・シリコンバレー的な働き方を日本でも実現させたいという思いが、後に「神山ラボ(サテライトオフィス)」開設につながる。

### ○神山ラボの開設

- ・神山町の古民家再生プロジェクトメンバーで、寺田氏の高校・大学の同級生である須磨氏から、「神山町って面白い町がある」と聞き、実際に神山町へ赴きNPO法人グリーンバレーの大南氏と出会う。
- ・神山町にラボを作るからには、「ビジネスだけでなく、できる限り地域貢献したい」と言う寺田氏に対し、大南氏は、「地域貢献なんて全然考えなくていい。こんな田舎で本業が成り立つことを証明してもらえたらええよ。」と言った。(大南氏には、Sansan(株)が成功すれば、後に続く企業がきつと出てくるといった思いがあった。)
- ・自然もあり、IT環境も良く、グリーンバレーの人たちが面白い。サテライトには申し分ない、神山町なら「新しい働き方を実践できる」と思った寺田氏は、2010年(平成22年)10月、神山町にとって第1号となるサテライトオフィスを設置した。
- ・より創造的に、より生産的に働くためのサテライトオフィス。寺田氏がシリコンバレーで見た、自然豊かな場所でストレスから開放されたクリエイティブな働き方を神山町のサテライトオフィスで実現させた。

## サテライトオフィス誘致事例2 えんがわオフィス (株式会社えんがわ、株式会社プラットイーズ)

### ○企業概要

(株)プラットイーズ

- ・2001年(平成13年)隅田氏が立ち上げたテレビ番組や映像コンテンツの情報に関する業務運用や、放送システムの開発、放送業務運用等を幅広く行う、ITベンチャー企業

(株)えんがわ

- ・4K・8K映像素材の制作・編集・配信や4K・8K映像素材のアーカイブ代行サービス、地域映像アーカイブスの企画・制作等を行う(株)プラットイーズの子会社

### ○東日本大震災後、災害時の課題へ対応するため

- ・2011年(平成23年)3月11日に発生した東日本大震災が浮き彫りにした課題の1つである「災害時の事業継続」。東日本大震災以降、この課題に対応するため、多くの企業が取引先などに事業継続計画(BCP=Business Continuity Plan)の策定を求めようになった。
- ・プラットイーズも、大手放送局などと取引があったため、BCPを策定し、東京のオフィスが被災しても業務が続けられるように拠点を分散する必要に迫られた。

### ○新たな拠点としての神山町

- ・隅田氏は、新たな拠点を探すため北海道から九州まで20か所くらいに足を運んだが、なかなか候補地が決まらずにいたところ、隅田氏の元上司が「徳島の山の中にIT企業が相次いで進出している町のニュースをNHKでやっていた。行って見たらどうだ。」と声をかけられ、神山町を訪れた。
- ・そして、隅田氏は神山町に引きつけられた、「ああ、ここしかない」と。彼を引きつけたのは、グリーンバレーのいい意味での「いい加減さ、ゆるさ」だった。
- ・企業誘致に力を入れている自治体は熱心なだけに「来てください、来てください」と肩に力が入っているが、グリーンバレーは「来たらええんちゃう」と自然体。何事に対しても「〇〇しなければならぬ」ではなく、「それぞれができることをやればいい」と極めてゆるい。
- ・神山には出入り自由の雰囲気があり、自分の考えを押し付けない、人との距離感が柔らかい。そのゆるさ加減が最高だと感じた隅田氏は、2013年(平成25年)7月、えんがわオフィスを設置した。